

博物館にまつわる数字 (2)

表 当館における事業費の推移 (平成 16 ~ 26 年) *他に H23 ~ 25 年には国の交付金による緊急雇用基金事業 (3 年合計 83 百万円) がある。

	H8(1996)	H16(2004)	H17(2005)	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
維持運営費	413,472	217,713	206,901	186,595	188,752	182,729	178,720	167,496	168,448	166,398	169,922	170,810
展示事業費	55,240	19,876	19,422	18,480	18,520	17,969	17,820	16,100	20,126	15,857	13,237	10,911
調査研究事業費	9,081	2,742	2,591	7,816	6,571	6,403	6,499	2,151	1,955	1,771	1,530	1,240
資料整備費	22,564	5,759	5,297	5,297	5,300	5,091	5,100	4,335	6,119	3,443	2,982	2,075
学習支援事業費	9,205	2,485	2,584	2,549	2,485	2,590	2,442	2,165	1,947	1,692	1,519	1,589
機関活用講座	323	195	181	176	174	181	151	181	181	181	181	—
情報システム	5,216	2,919	3,137	2,292	2,056	2,003	1,893	1,607	2,302	2,252	2,446	2,010
活性化事業費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	130,240	—	—
合計	515,101	251,689	240,113	223,205	223,858	216,966	212,625	194,035	201,078	321,834	191,817	188,635
前年比	—	94.0 %	95.4 %	93.0 %	100.3 %	96.9 %	98.0 %	91.3 %	103.6 %	160.1 %	59.6 %	98.3 %
H8 を 100 として	100%	48.9 %	46.6 %	43.3 %	43.5 %	42.1 %	41.3 %	37.7 %	39.0 %	62.5 %	37.2 %	36.6 %

はじめに

当館は今年 3 月 20 日に県立博物館と分離し独立してから 20 周年を迎えました。ちなみに県立博物館時代を含めると 48 年で、もうすぐ 50 周年になります。H17 (2005) 年に 10 周年を迎えたときに、「博物館にまつわる数字」を著しました (自然科学のとびら第 11 巻 1 号 4-5 ページ)。本稿は H16 (2004) 以降の数字を集めた (表) その続編です。併せてご覧ください。

景気の低迷や行政改革の一環で、全国の多くの博物館では予算と人員の削減、指定管理の導入などの「合理化」が行われてきています。当館でも H12 (2000) 年頃から冬の時代が続き (20 年中 15 年!)、「地球博物館はスノーボールアースになりました」という感じです。ここでは前回と同様に、年報などで公表されている数字を拾って、当館の状況を理解し、他の県立自然系博物館と比較してみようと思います。博物館の存在意義や価値、活動などは、数字やグラフで単純に示せるものではありません。しかし、外部から見てそれらを理解したり、博物

館同士や他の行政サービスとの比較をしたりするのは、役立つと考えています。

事業費の推移と突発事態

開館から 10 年目の H16 (2004) 年に、支出が最も多かった H8 (1996) 年の半分以下になりました (表、図 1)。その後も減り続け、H22 (2010) 年に初めて 2 億円を切りました。H26 (2014) 年は H8 (1996) 年比 36.6 % の 1 億 8860 万円と 1/3 近くまで減少しています。H9 (1997) 年に消費税が 3 % から 5 % に、H 26 (2014) 年には 8 % になりました。つまり、物価上昇が無いとしても、H8 (1996) 年に 103 円だった税込み価格が H26 (2014) 年には 108 円になりました。約 4.9 % の上昇です。これを計算に入れると H26 (2014) 年の支出は H8 (1996) 年比 35.0 % です。

H24 (2012) 年に一度だけ「活性化事業費 (住民生活に光をそそぐ交付金)」という内閣府の臨時予算がありました (表、図 2)。当館に交付されたその額なんと 1 億 3 千万円! カラカラに乾いた土地に大雨が降ると、大洪水が発生します。この年は複数のプロジェクトが突然動きだ

し、^{うるお}潤いというよりは大洪水並みのパニックになった年でした。

他館の場合 (図 3) : 滋賀県立琵琶湖博物館 (以下、滋賀と略す) と茨城県自然博物館 (同、茨城) は、元々予算規模は大きいのですが、減り方も急です。群馬県立自然史博物館 (同、群馬) と千葉県立中央博物館 (同、千葉) は元の予算が少ないですが、そこから徐々に減っています。特殊すぎて比較が難しいのは福井県立恐竜博物館 (同、福井) で、H21 (2009) 年に極端なピークがあり、その後はベースが 1 億円ほど上がっています。さらに同館の特徴はこの大きな支出額の半分近くの収入があることです。また、事業名が独特で「恐竜ブランド発信事業」、「恐竜魅力度アップ事業 (2 億 9 千万円で恐竜を購入! H21 年のピーク)」、「ふくいブランド全国展開事業」などがあります。

削減の著しい項目

前回の報告では、学習支援費、調査研究費、資料整備費という、博物館活動の中でも重要な項目で、特に削減が著

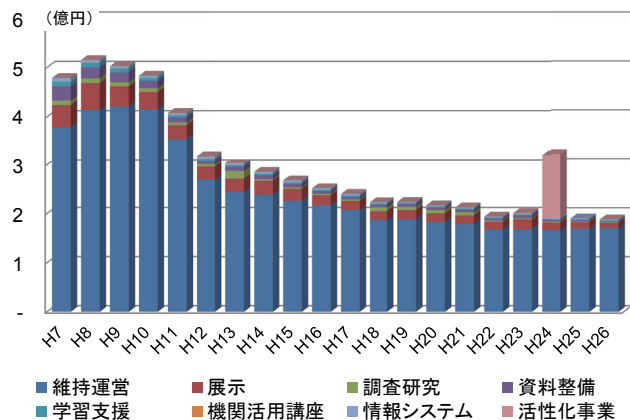


図 1 当館における事業費の推移 (平成 7 ~ 26 年) .

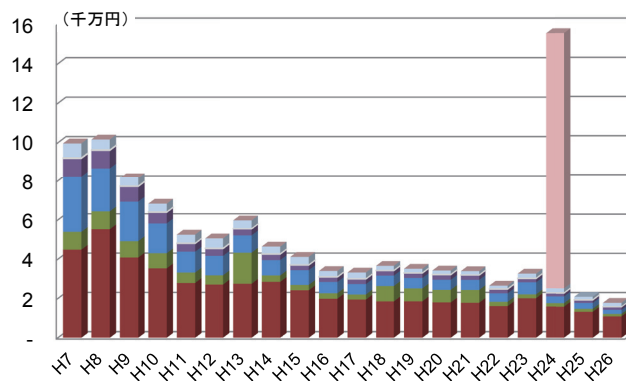


図 2 当館における事業費 (維持運営費を除く) の推移 (平成 7 ~ 26 年) . 凡例は図 1 と同じ.

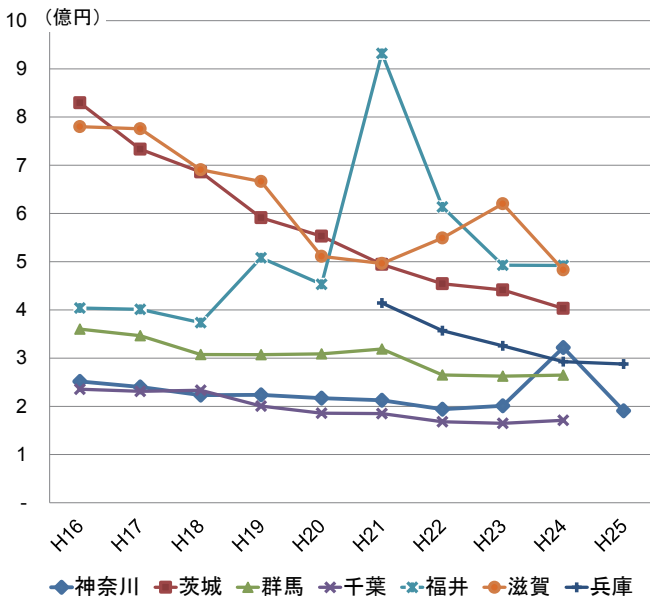


図3 各館の事業費の推移（平成16～24年，一部は25年）．兵庫の平成20年までのデータは不明。

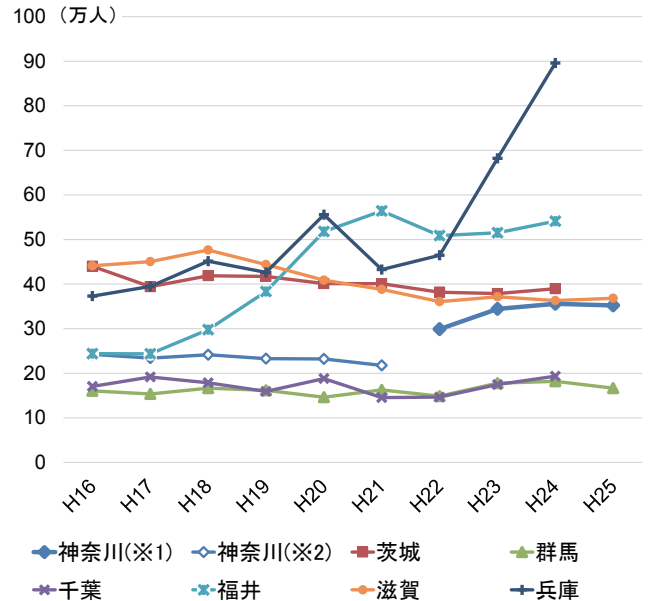


図5 各館の利用者数（入館者数）の推移（平成16～24年，一部は25年）．※1，利用者数．※2，常設展入館者数。

しいと述べました。H16 (2004) 年とH26 (2014) 年との比較で削減が大きいのは資料整備費 27.7 %、展示事業費と調査研究費で共に 45.2 %です。さらにH8 (1996) 年と比較するとH26 (2014) 年の資料整備費は 10.3 %、調査研究費は 14.9 %、学習支援費は 20.6 %、展示事業費は 26.7 %になっています。1/10～1/4にまで削減されていたことには、私自身も驚きました。

維持運営費／総事業費

博物館の維持（管理）運営費を家計でいうところの食費に、その他事業費を家計でいうところのその他の支出に見立てて、エンゲル係数を比較してみます（図4）。当館は全体の金額が最低レベルなので、とても高い数値を示しています。「食べるだけで精一杯の赤貧生活」ですね。

入館者数の推移

当館ではH24 (2012) 年の活性化事業費で展示室1階部分のラベルとパネルを更新し、音声ガイドを導入しましたが、大

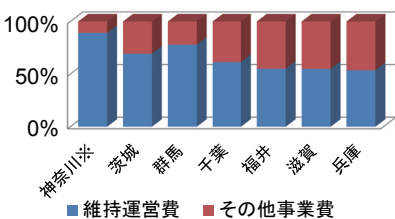


図4 平成24年度の事業費全体に占める維持（管理）運営費の割合．※神奈川は活性化事業をイレギュラーとして25年度のデータを用いた。

きな展示替えは一度も行っていません。それでも、常設展入館者数は予算ほど減っていません。H16 (2004) 年と比べて 84.6 %、H8 (1996) 年と比べて 60.3 %です。開館の効果が薄れたH12 (2000) 年頃からは緩やかな減少になっています。また、博物館利用者は、常設展の入館者だけではなく、特別展、講座・講演会、レファレンス、資料閲覧などを利用する人を含むので、H22 (2010) 年からは重複を除いてすべてを合算することになりました。当館ではそれを「利用者数」としました（表、図5）。利用者数は35万人前後で大きく減ったことはありません。

他館の場合：開館やリニューアルから数年で大きく減って、後は漸減するのが普通のパターンです。今回取り上げた各館ではその漸減の時期に入っているはず（滋賀はリニューアルを計画中大そうです）。しかし、兵庫はH18 (2006) 年頃から徐々に利用者数を延ばし、H22 (2010) 年からは急激に増加しています。丹波竜の発見をきっかけにH20 (2008) 年に恐竜ラボを建設し、H24 (2012) 年には移動博物館車「ゆめはく」による出張展示を開始したことなどの成果かもしれません。福井でもH18 (2006) 年頃から徐々に入館者が増え、H20 (2008) 年に50万人を超えています。こちらも恐竜発掘の成果を反映しているようで、1日1万人を超えた日もあったようです。利用者数を増やして

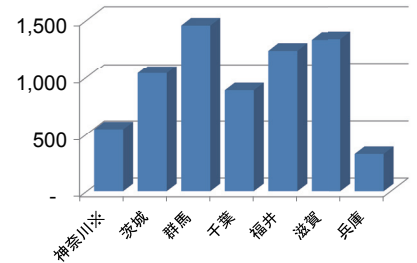


図6 平成24年度の事業費を入館者数で割った値．※神奈川は活性化事業をイレギュラーとして25年度のデータを用いた。

きた両館には、「恐竜」という共通の原動力はありそうですが、年報から活動を見ているとそれだけではないと推察できます。

図6で利用者1人当たりの博物館の支出を見ると、当館は大人の入館料に近い540円ですが、兵庫は330円とさらに低くなっています。1,000円前後が平均的ですが、いずれも前回（H14年度）の約半額になっています。

おわりに

展示や教育普及は、博物館の機能の一部でしかありませんが、一般利用者にとって重要な部分でもあります。資料収集・保管や研究など博物館独自の機能をアピールすると同時に、一般向けのサービスも充実させて行きたいと思ひますし、既に取り組んでいる博物館があることも分かりました。

本稿のためのデータ探しから整理まで、古生物ボランティアの磯崎 誠氏にご協力いただきました。記して感謝します。